

1. 略歴

1989年3月	大阪大学文学部史学科西洋史学専攻 卒業
1991年3月	大阪大学大学院文学研究科博士前期課程史学専攻 修了
1997年9月	同 博士後期課程 単位修得退学
1997年11月	パリ第1大学 博士(歴史学) 学位取得
1999年10月	大阪大学大学院文学研究科 助手
2000年4月	徳島大学総合科学部 助教授
2012年4月	上智大学文学部史学科 准教授
2014年4月	同 教授
2016年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

フランス近現代史

b 研究課題

19世紀パリの政治社会史、フランス共和主義の政治文化、近代フランスにおけるカトリシズム

c 概要と自己評価

研究に関しては、先期に引きつづきパリ民事簿復元事業の研究をおこなった。また、フランス史の概説書を共同で執筆し、担当した19世紀前半期に関して、最新の研究成果を盛り込んで新たなフランス近代史像を描いた。教育では、フランス史研究者の育成に努めた。

d 主要業績

(1) 著書

共著、平野千果子編、長井伸仁ほか著、『新しく学ぶフランス史』、ミネルヴァ書房、2019.11

(2) 書評

長井伸仁、「高橋則雄『パリ・コミュニケーションにおける人民主権と公教育』(すずさわ書店、2019年)」、『神奈川大学評論』、第95号、155頁、2020.3

(3) 総説・総合報告

長井伸仁、「近代—フランス(回顧と展望)」、『史学雑誌』、第127編第5号、348-354頁、2018.5

長井伸仁、「社会史と現在」、谷川稔ほか編『越境する歴史家たち—近社研(1985-2018)からのオマージュ』、ミネルヴァ書房、152-155頁、2019.5

(4) 翻訳

編訳、Régine Azria, Danièle Hervieu-Léger, dir., *Dictionnaire des faits religieux*, 杉村靖彦、伊達聖伸、鶴岡賀雄、増田一夫、長井伸仁編訳、『宗教事象事典』、みすず書房、2019.5

共訳、Philippe Boutry, "De l'invention du cimetière au triomphe de l'incinération: les transformations de la mort en France du XVIIIe siècle au XXIe siècle", 長井伸仁、長島濤訳、「墓地の発明から火葬の勝利へ：フランスにおける死の変容(18-21世紀)」、『思想』、第1150号、6-24頁、岩波書店、2020.2

(5) 教科書

橋場弦、桜井英治編、長井伸仁ほか著、『中学歴史 日本と世界』、山川出版社、2020年3月検定合格

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、日本西洋史学会、『西洋史学』編集委員、2017.4～

(2) 講演会

長井伸仁、「フランス革命はどのように想起されてきたのか」、津山洋学資料館、2019.9.8(日)